

科目名	世界史 A	学年	2年	コース	全	単位数	2	担当者	
<p>1 目 標 現代世界の歴史を近現代史を中心に日本の歴史と関連づけて理解する。各地域の文明が接触や交流を繰り返し、現代の世界を形成してきたことを学ぶ。</p> <p>2 到達目標 前近代史において、日本の歴史との関連を必ず位置づける。 前近代における人や物の交流を理解する。 16世紀以降、世界が一体化する。19世紀から欧米を中心とした世界の一体化を相対化し、アジアに目を向け、近代を近世との“たて＝流れ”と“よこ＝時代（世紀）”からとらえることを重要視していく。 20世紀は19世紀とは全く性格の異なる社会の出現であったことを理解する。</p> <p>3 成績評価の方法 定期考査、提出物、授業態度や出席状況等で総合的に評価する。</p> <p>4 学習者へのメッセージ 古代、中世、近世は、授業では猛スピードで展開する。まず、前近代の歴史（市民革命以前）は、諸世界の特質を知ることと、日本の歴史との関連を考えて学習する。また、世界の全体的イメージをとらえることを学習する。 歴史を通して文明について考える。諸文明の歴史的特質、接触・交流、現代文明を学ぶ。私たちが生きる現代においては、国家や国民という枠をこえて地球的または人類的規模の課題の解決が要求される。そのための学習となる。また、国際社会での日本の役割も考える。 異文化理解を通して、相対的にものごとを見る目を養う。国家や民族は、国際化の進展の中で同質化されるのではなく、異文化を認め共存していく。それにはまた摩擦も伴うものである。</p> <p>5 使用教材 教科書「未定」() 副教材「図表（未定）」()</p> <p>6 自己評価 1年間を振り返って到達目標を達成できたか、自己評価をして、今後の課題を明らかにしよう。 到達目標 [] [] [] 課 題</p>									

A：十分，達成できた。 B：だいたい達成できた。 C：努力が不足した。

7 年間授業計画

月	単元(章,節など)	重点目標
4 、	東アジア世界	中国を中心とした農地帯と遊牧地帯の社会・文化の特色の理解 仏教・ヒンドゥー教中心のインド文化の影響をうけて国家を築いたことを理解 イスラム教を軸として発展を遂げ、各地の国家の進展を促したことの理解 キリスト教文化の理解とヨーロッパの歴史理解
	南アジア世界	
5 、	イスラーム世界	
	ヨーロッパ世界	
1 学 期 中 間 考 査		
6 、 7	海域世界の成長とユーラシア 地中海海域とユーラシア 大航海時代の世界	ユーラシア南縁部の諸海域を結ぶ海域世界の成立と交流を把握 イタリア商人とムスリム商人の活動が結びつくことが地中海交流圏を成熟させたことを理解 ヨーロッパ人の海外進出と諸地域世界の動きを中心に16世紀の世界の一体化を理解
1 学 期 期 末 考 査		
9 、 10 、	アジアの諸帝国と ヨーロッパの主権国家体制 ヨーロッパ・アメリカの諸革命 アジア諸国の変貌と日本	オスマン、ムガル、清などの諸帝国の政治・社会の成立 オランダ・イギリス・フランスなどの主権国家体制の成立 西ヨーロッパとアメリカ合衆国に産業社会が成立し、国民国家形成が進行したことを理解 ヨーロッパ進出による世界の一体化についての理解
2 学 期 中 間 考 査		
11 、 12	急変する人類社会 二つの世界戦争と平和 米ソ冷戦とアジア・アフリカ諸国	20世紀の特質を人類史的視野から把握する。 二つの世界戦争の性格、そして及ぼした影響と平和の意義を学ぶ 米ソの対立や、アジア・アフリカの民族独立運動を学習する中で、1970年頃までの歴史を理解
2 学 期 期 末 考 査		
1 、 3	地球社会への歩みと日本 地域紛争と国際社会 科学技術と現代文明	1970年代以降、大きく変容していったことへの理解と日本の役割を考える 冷戦終結後の地域紛争の原因や歴史的背景を追う 原子力の平和利用や、コンピュータによる世界の一体化、宇宙開発に向けての国際協力の必要性などを考察
学 年 末 考 査		

